

# 「日本版ノーベル賞」日本国際賞

## ネオジム 磁石開発者 佐川博士ら4人

日本版ノーベル賞と称される「日本国際賞」の12年

(第28回)受賞者4人が、  
国際科学技術財団(吉川弘

メタリックスの代表取締役  
社長佐川真人博士(68歳)

材料科学者として教育を受け、富士通研究所と住友特殊金属(現日立金属)で永久磁石の研究開発を行った。1988年にインターメタリックスを設立し、代表取締役社長を務めている。現在も、磁石の性能を高めるために添加されるレアアースの一種であるジスプロシウムを削減など、

之理事長)から25日発表された。

「健康、医療技術」分野はがんの一種である白血病の原因酵素の究明と画期的な治療薬の開発に携わった、シャネット・ラウリー博士(86歳)、ブライアン・ドラッカー博士(56歳)、ニコラス・ライドン博士(54歳)が選ばれた。

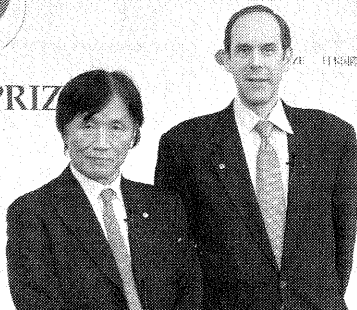
ネオジム磁石の高性能化の研究開発に取り組んでいる。

佐川博士と来日した  
ドラッカー博士

「環境、エネルギー」分野ではネオジム―鉄―ホウ素を使用した世界最高性能の永久磁石開発者、インター

佐川博士は、神戸大学と東北大学金属材料研究所で

授賞式は4月25日、東京の国立劇場で行われる予定、また翌26日には有楽町朝日ホールで受賞者による記念講演会が開催される。



PRIZ